



平成26年12月5日

ストーブ*を使用中の火災に注意！

～ 12月から火災が急増します ～

例年、秋口から春先にかけてストーブに起因する火災が多発しています。寒さも厳しくなり、ストーブを使用する機会も増えてくることから、東京消防庁ではストーブの取扱いに注意を呼びかけています。

※ ストーブとは、石油ストーブ、電気ストーブ、ガスストーブをいいます。

【ストーブの火災発生状況】

1 電気ストーブの割合が7割以上

過去5年間（平成21～25年、以下同じ）のストーブの火災発生状況をみると、748件の火災で48の方が亡くなっています。このうち、電気ストーブから発生した火災は538件で、ストーブから出火した火災の7割以上（71.9%）を占めており、死者は33人（68.8%）発生しています。（表1参照）

電気ストーブは、給油の手間がない、空気を汚さない、比較的安価で購入できるなどの理由から、広く普及していると思われます。

本年1月から11月までは99件の火災が発生しています。火災件数は前年同期と比べ減少していますが、前年と同じ8の方が亡くなっています。（表2参照）

2 ストーブの火災はこれから増え始めます

過去5年間の火災発生状況を月別にみると、暖房器具を使い始める11月ころから増加し、1月をピークに徐々に減少していく傾向にあります。

冬季（1月、2月、3月、12月）に591件の火災が発生し、ストーブ火災のほぼ8割（79.0%）がこの期間に発生しています。（図参照）

3 主な出火原因

電気ストーブでは、寝具類や衣類、洗濯物などが接触して出火した火災、石油ストーブでは、こぼした灯油に引火して出火した火災、ガスストーブでは、漏れたガスや近くのスプレー缶が破裂し、噴出したLPGに引火して出火した火災などが多く発生しています。（表3参照）

4 高齢者は特に注意

過去5年間で、ストーブが原因の火災により亡くなった方を年齢別にみると、80歳代が最も多く、次いで70歳代となっております。消し忘れや、燃えやすいものを近くに置かないなどの注意が必要です。（表5参照）

5 火災を防ぐために

ストーブの火災は、その8割以上が使用者の取り扱いや不注意に起因して発生しています。取扱説明書などに記載されている注意事項等をよく読み、安全に取り扱うことが必要です（別紙：火災を防ぐポイント参照）

※ 詳細は別紙を参照してください。

問合せ先

東京消防庁（代） 03-3212-2111
予防部調査課 内線5066 5068
防災部防災安全課 内線4195 4196
広報課報道係 内線2345～2350

表1 過去5年間（平成21年～平成25年）の火災発生状況

| | 件数 | 死者 | 負傷者 | 電気ストーブ | | | 石油ストーブ | | | ガスストーブ | | |
|-----|-----|----|-----|--------|-------|-------|--------|-------|-------|--------|------|-------|
| | | | | 件数 | 死者 | 負傷者 | 件数 | 死者 | 負傷者 | 件数 | 死者 | 負傷者 |
| 21年 | 152 | 18 | 71 | 105 | 11 | 41 | 38 | 5 | 24 | 9 | 2 | 6 |
| 22年 | 127 | 6 | 60 | 95 | 3 | 36 | 19 | 2 | 18 | 13 | 1 | 6 |
| 23年 | 161 | 6 | 72 | 115 | 4 | 43 | 32 | 2 | 19 | 14 | - | 10 |
| 24年 | 161 | 8 | 74 | 118 | 6 | 48 | 30 | 1 | 19 | 13 | 1 | 7 |
| 25年 | 147 | 10 | 84 | 105 | 9 | 48 | 32 | 1 | 26 | 10 | - | 10 |
| 合計 | 748 | 48 | 361 | 538 | 33 | 216 | 151 | 11 | 106 | 59 | 4 | 39 |
| 割合 | | | | 71.9% | 68.8% | 59.8% | 20.2% | 22.9% | 29.4% | 7.9% | 8.3% | 10.8% |

表2 平成26年（1月～11月）の発生状況

| | 件数 | 死者 | 負傷者 | 電気ストーブ | | | 石油ストーブ | | | ガスストーブ | | |
|-----|-----|----|-----|--------|----|-----|--------|----|-----|--------|----|-----|
| | | | | 件数 | 死者 | 負傷者 | 件数 | 死者 | 負傷者 | 件数 | 死者 | 負傷者 |
| 26年 | 101 | 8 | 54 | 82 | 7 | 41 | 16 | 1 | 13 | 3 | - | - |

※ 死者8名の内、高齢者は7名。負傷者54名の内、20名が高齢者となっています。

※ 平成26年は11月30日現在の速報値で、後日変更される場合があります。

表3 平成26年（1月～11月）の月別発生状況

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 |
|----------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|
| ストーブ火災件数 | 27 | 34 | 17 | 7 | 2 | 2 | 2 | - | 1 | - | 9 |
| 死者 | 3 | 2 | 3 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 負傷者 | 26 | 13 | 4 | 5 | - | 1 | 3 | - | - | - | 3 |

※ 平成26年は11月30日現在の速報値で、後日変更される場合があります。

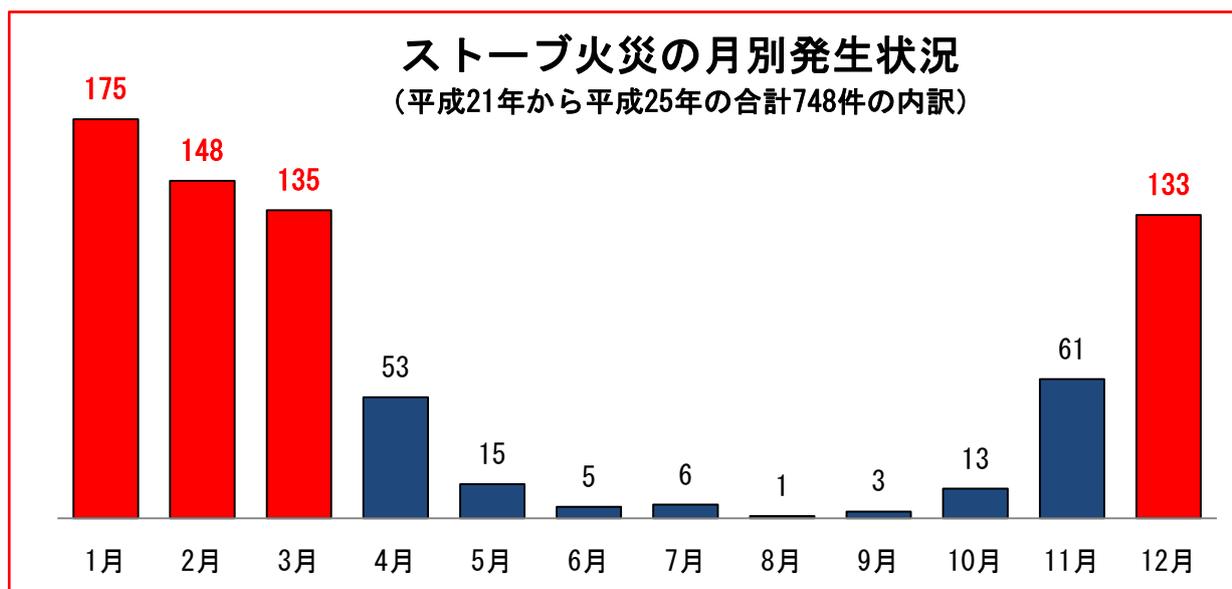
表4 主な出火原因（平成21年～平成25年）

| | 合計 | 布団などが接触する | 漏れたガスやこぼした灯油に引火する | 洗濯物などが落下する | 布団などが近すぎて発火する | タオルや衣類を置く | 火を消さずに給油して引火する | 誤ってスイッチが入る（入れる） | ストーブが転倒する | 電源コードなどが短絡する | ストーブが接触する | コードが半断線により発熱する | コードの接続部などが緩み過熱する | トラッキング | 可燃物が倒れてストーブに接触する | その他 |
|--------|-----|-----------|-------------------|------------|---------------|-----------|----------------|-----------------|-----------|--------------|-----------|----------------|------------------|--------|------------------|-----|
| 電気ストーブ | 538 | 323 | 4 | 40 | 38 | 20 | - | 19 | 14 | 15 | 12 | 13 | 11 | 5 | 2 | 22 |
| 石油ストーブ | 151 | 15 | 47 | 8 | 3 | 13 | 32 | - | 1 | - | 2 | - | - | - | - | 30 |
| ガスストーブ | 59 | 17 | 29 | 6 | 2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 5 |
| 合計 | 748 | 355 | 80 | 54 | 43 | 33 | 32 | 19 | 15 | 15 | 14 | 13 | 11 | 5 | 2 | 57 |

表5 過去5年間（平成21年～平成25年）のストーブ火災による死者数（年齢別）

| | 10歳代 | 40歳代 | 50歳代 | 60歳代 | 70歳代 | 80歳代 | 90歳代 | 合計 |
|----|------|------|------|------|------|------|------|-----|
| 人数 | 1人 | 4名 | 4名 | 5名 | 13名 | 18名 | 3名 | 48名 |

図 月別発生状況（平成21年～平成25年）



【別紙】

火災を防ぐポイント

1 ストープの周囲は、常に整理整頓を

布団、衣類、雑誌などの可燃物がストーブの近くに置いてあると、ちょっとしたはずみでこれらの可燃物がストーブに接触し出火する恐れがあります。近くにスプレー缶を置いておくと、ストーブの熱で缶が破裂し、漏れたガスに引火します。

2 寝るとき、その場を離れる時は火を消す習慣をつける

寝返りなどで布団がストーブに接触して火災になる恐れがあります。寝る時やその場を離れる時は、火を消す習慣をつけましょう。

3 燃えやすい物の近くでストーブを使用しない

カーテンのそばで使用したり、ストーブの上や近くに洗濯物を干したりすると、ストーブに触れて火災になる恐れがあります。

4 給油は火を消してから行う

給油中にこぼした灯油に引火する恐れがあります。給油は火が完全に消えたのを確認してから行いましょう。また、カートリッジタンクはキャップが完全に閉まっているのを確認してから装着しましょう。

5 使用しない時は電源プラグをコンセントから抜いておく

電気ストーブは、何かの拍子に誤ってスイッチが入ってしまい、近くに可燃物があると出火する恐れがあります。

6 異常を感じたら使用を中止する

ストーブ本体の異常から出火する火災も発生しています。使用中に異常を感じた場合は直ちに使用を中止し、製造メーカーや販売店等に相談しましょう。また、日頃からストーブ本体や電源コード、ガスホースなどに異常がないか点検してから使用しましょう。

《取扱いに十分注意して、ストーブの火災を防ぎましょう！！》

【火災事例】

事例 1 「衣類が接触して出火した火災」(電気ストーブ)

(平成 26 年 1 月 1 時ごろ 荒川区)

この火災は、住宅の 1 階居室内で、就寝中に寝がえりを打った際、足元付近に置いていた衣類が電気ストーブに接触し出火したものです。火元居住者(80 歳代女性)は火災に気づき、初期消火を試みましたが消火できず逃げ遅れて死亡しました。また、火災に気付いた近隣者 2 人が消火中に一酸化炭素を吸うなど負傷(軽症)しています。

写真 1-1 出火箇所の状況



写真 1-2 電気ストーブの状況



事例 2 「漏れた灯油に引火した火災」(石油ストーブ)

(平成 26 年 2 月 17 時ごろ 葛飾区)

この火災は、共同住宅の 2 階居室で、給油したタンクのキャップが完全に閉まっていなかったため、装着しようとした際に灯油が漏れてストーブにかかり、出火したものです。行為者はストーブの火を消していませんでした。

行為者の夫が座布団などで消そうとしましたが消しきれず、騒ぎで駆け付けた近隣者が持ってきた消火器で消火しました。死傷者は発生していません。

写真 2-1 出火した石油ストーブの状況



写真 2-2 ストーブ上部の焼損状況



【ストーブの火災実験】

1 電気ストーブ

点けたままの電気ストーブに掛布団が接触して出火



2 石油ストーブ

火を消さずに給油。タンクキャップが完全に閉まっていなかったためこぼれた灯油に引火して出火

